

CSR Report 2025

CSRレポート2025

GEECHS

 目次
Contents

グランドビジョン	1	2025年3月期の	5	ギークスグループ	13
会社概要	2	サステナビリティ推進目標に対する報告		サステナビリティ推進5大ニュース	
GEECHS	3	2025年度3月期の目標	6	①地域創生に向けた取り組み	14
Social Impact Flow 解説		マテリアリティ①	7	②CultureDeckの公開	16
トップメッセージ	4	「技術リソースのシェア・流動化」の推進へのアプローチ		③健康経営の推進	17
		マテリアリティ②	8	④リユースに対する啓発活動	19
		「IT・DX・AI人材の成長・リスクリング」の推進へのアプローチ		⑤サステナビリティ開示	20
		マテリアリティ③	9		
		「フリーランスが安心して働ける環境の整備」の推進へのアプローチ			
		マテリアリティ④	10	2026年3月期の	21
		「コーポレートガバナンスの強化」の推進へのアプローチ		サステナビリティ推進目標に対する開示	
		マテリアリティ⑤	11	2026年3月期の目標	22
		「パートナーシップの形成・拡充」の推進へのアプローチ			
		サステナビリティ推進担当部門の取り組み	12		

Make the biggest impression in the 21st century

ギークスグループが手掛ける事業の根幹にはこのグランドビジョンがあります。

提供するサービスを通じて顧客への継続的な成功体験を届け、大きな感動へ繋げることが

私たちが目指す姿であると同時に事業に向き合う考え方やスタンスです。

IT・DX・AI人材の活用を軸に、技術リソースのシェアリングプラットフォームとして歩み続けます。

 会社概要
About Us

社名	ギークス株式会社		事業内容	IT人材事業(国内) IT人材事業(海外) Seed Tech事業(シードテック株式会社)
代表者	代表取締役CEO 曾根原 稔人		売上規模	25,162百万円(2025年3月期 ※グループ連結)
設立年月日	2007年8月23日		従業員数	291名(2025年3月31日現在 ※グループ連結)
本社所在地	東京都渋谷区渋谷2-24-12 渋谷スクランブルスクエア 39階(WeWork内)		グループ拠点	東京本社、北海道支店、大阪支店、広島支店、福岡支店、名古屋サテライトオフィス、オーストラリア、フィリピン
資本金	1,112百万円(2025年3月31日現在)			
上場市場	東京証券取引所 スタンダード市場(7060)			
役員構成	代表取締役CEO 曾根原 稔人 取締役CFO 佐久間 大輔 取締役 成末 千尋 取締役 高原 大輔 社外取締役 松島 俊行	社外取締役 佃 友貴 常勤監査役 山口 祥子 社外監査役 花木 大悟 社外監査役 仲江 武史		

Group Companies
グループ会社

GEECHS
IT人材事業(国内)

launch
IT人材事業(海外)

 seedtech
Seed Tech事業

ALIVE
IT人材事業(国内)



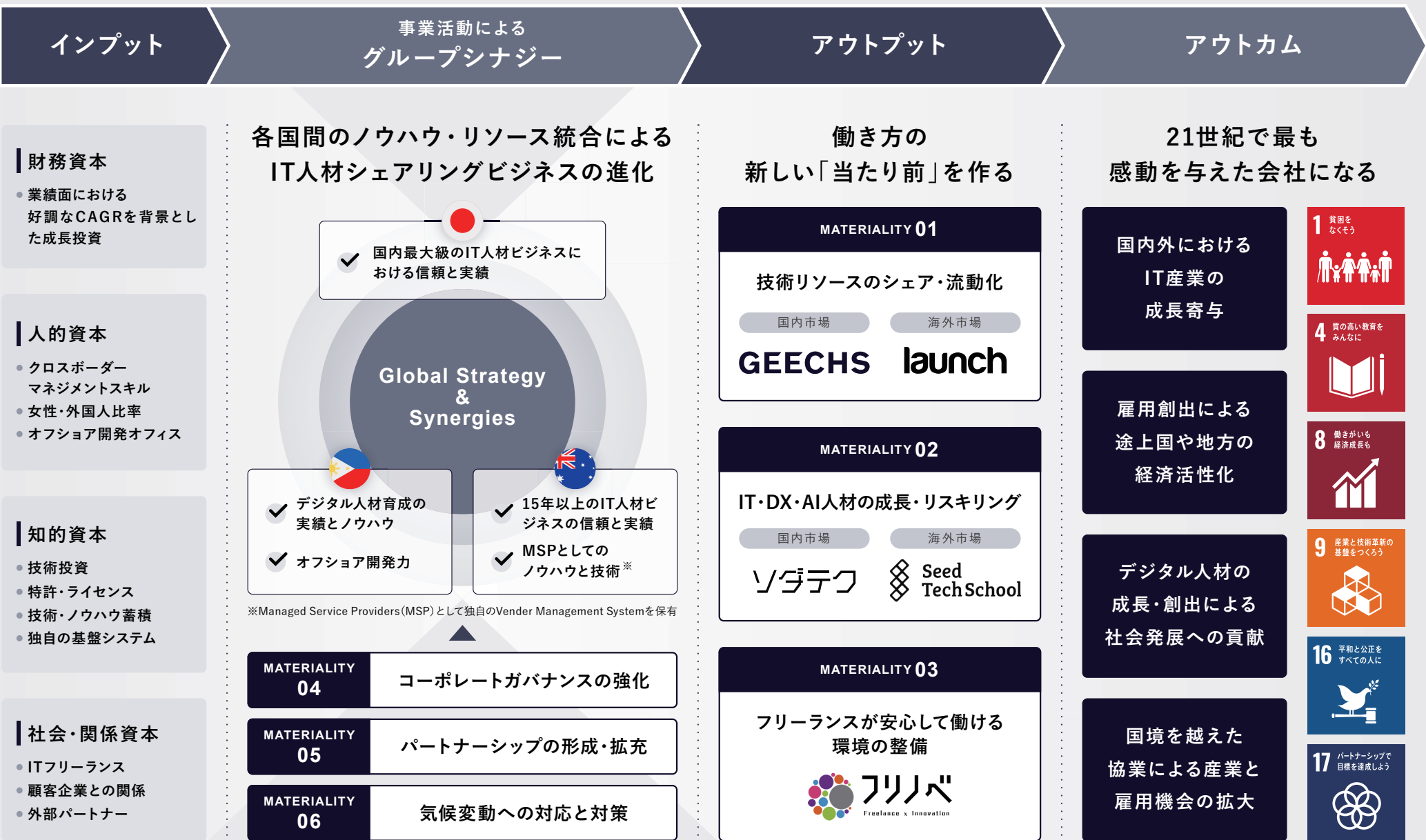
GEECHS Social Impact Flow

価値創造サイクル

「GEECHS Social Impact Flow」は
ギークスグループの事業活動と社会貢献
の繋がりを可視化したものです。

国際統合報告評議会 (IIRC) が示す国際
統合報告フレームワークの中でも紹介さ
れている「価値創造プロセス」のギークス
グループ版であり、企業の経営資本、事
業構成、社会貢献性、社会への影響度の
一連の流れを明示し、社会の持続可能性
にどれだけのインパクトを与えられるの
かを表しています。

株主・投資家だけでなく、あらゆるステー
クホルダーの方々に分かりやすく届けら
れるように、SDGsのどのゴールを目指し
ているのかを伝え、また、グランドビジョ
ンや事業ミッションの達成との連携を示
すことで、会社で働くメンバーや求職者な
どに対しても理解を得やすい構造でまと
めています。



トップメッセージ

Message from CEO

ギークス株式会社は、「21世紀で最も感動を与えた会社になる」というグランドビジョンのもと、2007年にIT人材に特化した人材エージェント会社として創業しました。

2025年3月期は、北海道・広島の両支店の新設や、株式会社アライヴのグループ入り(M&A)など、国内における事業基盤の拡大が進んだ一年となりました。さらに、2023年1月にグループに加わったオーストラリアのローンチ社との連携を通じ、グローバルな協業体制の強化も着実に進んでいます。私たちは今、東証スタンダード上場企業として、これまで以上に社会的責任を果たすべきフェーズにあることを強く実感しています。

ギークスグループが事業活動を通じて取り組むべき最も重要な社会課題は、「IT人材の不足」です。経済産業省のIT人材需給ギャップ調査によれば、2030年には国内で最大79万人のIT人材が不足すると見込まれており、これは社会全体の課題であると同時に、企業のDX推進やプロダクト開発における深刻な経営課題でもあります。

本レポートの作成にあたり、私たちは改めてこの「IT人材の不足」というテーマを見つめ直しました。そのなかで、創業当時と比べて、IT人材に求められる役割やスキルが大きく変化してきていることに気づかされました。従来は、システムの開発や保守運用を担う“業務遂行型”の人材が中心でしたが、今後は、生成AIをはじめとする先端技術を駆使し、社会課題の解決や新たな価値の創出に貢献できる人材が、より一層求められていくと考えています。IT人材の定義そのものが、今まさに進化しようとしているのです。

この課題に対して、ギークスグループでは、日本・フィリピン・オーストラリアといったアジア太平洋地域を中心に、「IT人材のグローバルシェアリングプラットフォーム」の構築を進めています。これに

より、国内外の企業の持続的な発展に寄与するとともに、「IT産業の成長支援」「雇用創出による地域経済の活性化」「IT人材の育成」「国境を越えた協業による産業の発展」など、複数の社会的インパクトを生み出せると確信しています。

ギークスではこれまで、IT企業とITフリーランスのマッチングサービスを中心に事業を展開してきましたが、今後は非IT企業に対しても、DXやAIをキーワードとした価値提供を強化していきます。また、地方企業のIT人材活用やDX推進支援を通じて、「地域創生」につながる取り組みにも力を入れてまいります。「IT人材の不足」に起因するあらゆる経営課題を解決するパートナーとして、ギークスグループはさらなる進化を目指します。

昨年度に引き続き、「CSRレポート2025」を発行できることを嬉しく思うとともに、これからも上場企業としての責任を誠実に果たしてまいります。今後とも変わらぬご指導・ご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。ギークスグループの今後のサステナビリティ推進に、ぜひご期待ください。



ギークス株式会社
代表取締役 CEO **曽根原 稔人**

1975年生まれ。共同創業した会社で株式上場を実現後、日本にITフリーランスという働き方を普及させるため、2007年8月にギークス株式会社を設立。2019年3月東証マザーズに上場し、現在は東証スタンダード市場に上場。ITフリーランスの働き方支援による技術リソースのシェアリングプラットフォームを主軸に、IT・DX・AI人材を育成する事業などを展開する。

2025年3月期の

サステナビリティ推進目標に対する報告

2025年3月期のサステナビリティ推進目標

Sustainability Promotion Goals for FY3/2025

2025年3月期は、5つのマテリアリティ（CSRレポート2024発行時）に対する取り組み、また、ギークスのサステナビリティ推進担当部門による様々な取り組みを通じて、ギークスグループのサステナビリティ推進を実施してきました。2024年12月には6つ目のマテリアリティ「気候変動への対応と対策」を追加し、気候変動に対する開示や取り組みをこれまで以上に前進させました。

◆ 5つのマテリアリティ①

「技術リソースのシェア・流動化」の推進目標

・geechs job新規登録者数・取引企業数

◆ 5つのマテリアリティ②

「IT・DX・AI人材の成長・リスクリング」の推進目標

・「ソダテク」「Seed Tech School」「Seed Tech Camp」の拡大

◆ 5つのマテリアリティ③

「フリーランスが安心して働ける環境の整備」の推進目標

・「フリノベ」提携サービス数・CSや営業の伴走支援の可視化（広報としての情報発信）

◆ サステナビリティ推進担当部門の推進目標

- ・サステナビリティ推進に関連するイベントの実施
- ・サステナビリティ推進に関連する情報発信、ブランディング強化
- ・ギークスグループ全体のサステナビリティ開示に向けた環境構築（フィリピン・オーストラリアなどの海外拠点）

◆ 5つのマテリアリティ④

「コーポレートガバナンスの強化」の推進目標

- ・強固でセキュアな情報管理体制の構築（例：ゼロトラストを基準とした情報管理体制の構築・全社員向けの教育・研修の実施など）
- ・安心・安全・公正な取引（例：毎年実施の反社チェック・海外事業のステークホルダーのマナーロンダリングチェックなど）
- ・透明性と責任（例：上場企業の社会的責任遵守に向けた適切な情報開示、包括的な意思決定プロセスの確立と開示）

◆ 5つのマテリアリティ⑤

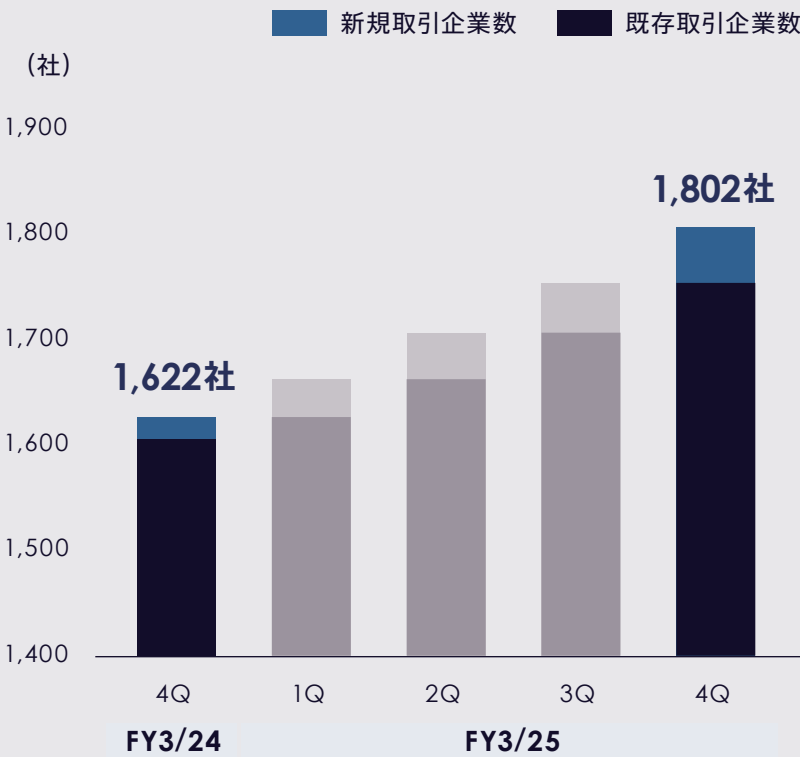
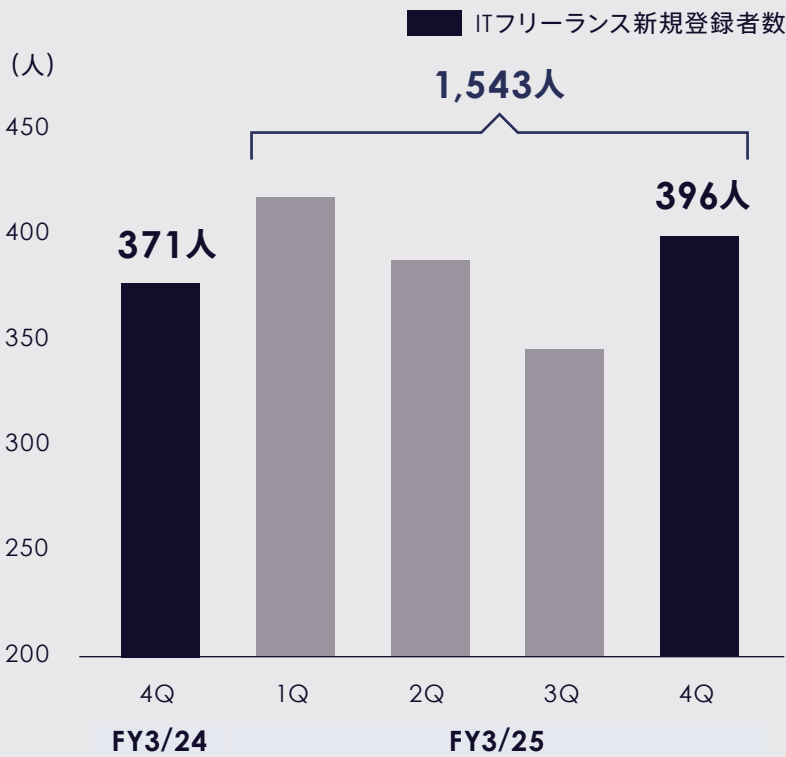
「パートナーシップの形成・拡充」の推進目標

- ・Culture Deckを基軸とした採用・育成・評価等の推進
- ・ギークスグループで働くメンバーの家族を巻き込んだイベント等の実施
- ・「健康経営優良法人」及び「健康優良企業『銀』の認定」の継続取得

技術リソースのシェア・流動化

Sharing and Flexibility of Technical Resources

ITフリーランス新規登録者数、取引企業数に着目し、マテリアリティ①「技術リソースのシェア・流動化」の進捗を確認しております。

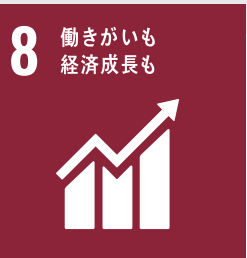


■ ITフリーランス新規登録者数は通期で1,543名(昨年+94名)と堅調に増え続けています。フリーランスという働き方を選択したIT人材の方々へのサポートを通じ、雇用にこだわらない人材活用を広げています。

■ 新規取引企業数は通期で180社増え、累計で1802社となりました。ITフリーランスの活用を選択する企業は増え続けています。

マテリアリティ①「技術リソースのシェア・流動化」

2030年に最大79万人のIT人材が不足するという想定(経済産業省のIT人材需給ギャップ調査)に対し、企業の枠を超え、複数のプロジェクトに携わることもできるITフリーランスの活用を通じ、課題解決に取り組んでおります。ITフリーランスの方々の技術スキル・経験・志向性、そして企業の案件をデータベース化し、「技術力をシェアするプラットフォーム」の役割を担うことで、雇用にこだわらない人材活用を啓蒙し、IT人材不足を解消に導きます。



IT・DX・AI人材の成長・リスキリング

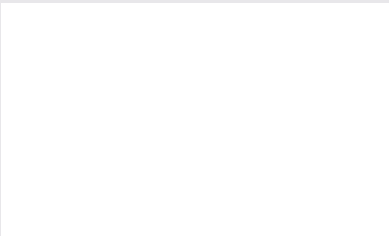
Growth and Reskilling of IT, DX, and AI Talent

グループ企業であるシードテックのサービスを通じて、マテリアリティ②「IT・DX・AI人材の成長・リスキリング」を推進しております。



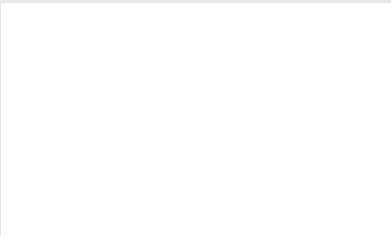
デジタル人材育成プラットフォーム「ソダテク」

IT・DX・AI人材育成を目的としたオンライン学習プラットフォーム。500本以上の動画教材を提供し、未経験・非ITエンジニア層のリスキリングから、現場で活躍できるデジタル人材の育成まで対応しています。



デジタル留学「Seed Tech School」

フィリピン・セブ島で合宿形式でITと英語を学ぶデジタル留学スクールを運営しています。10年間で2,400名を超えるグローバルIT人材を輩出し、多くの方々の「LIFE SHIFT」の機会を創出しています。



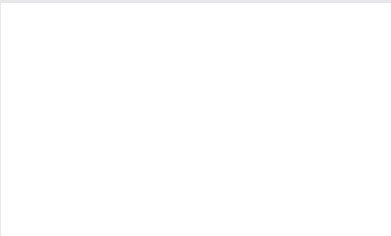
エンジニア育成プロジェクト「Seed Tech Camp」

シードテックが受託するラボ型開発案件への参画を目標に、IT職未経験の若者に向けて、3ヶ月間の研修を実施し、IT人材としてのキャリアスタートを支援しています。



オフショア開発「事業共創ラボ」

日本国内のエンジニア活用だけでは解決できない「IT人材不足」に対し、フィリピン・セブ島にて世界標準の「事業共創ラボ型」オフショア開発を推進し、開発チームの組成に貢献しています。



マテリアリティ②「IT・DX・AI人材の成長・リスキリング」

2013年よりフィリピン・セブ島でのデジタル留学を開始し、現在は「Seed Tech School」の運営を通じて、IT・DX・AI人材の育成・母数拡大に貢献しています。また、2022年4月にはデジタル人材育成プラットフォーム「ソダテク」の提供を開始し、オンライン学習を通じ、リスキリングの機会を提供、企業内でデジタル人材を育成する環境づくりを進めております。

1 貧困をなくそう



4 質の高い教育をみんなに



8 働きがいも経済成長も



ITフリーランスが安心して働ける環境の整備

Creating a Safe and Supportive Work Environment for IT Freelancers

ITフリーランス向け福利厚生プログラム「フリノベ」の運営をはじめとして、様々なイベントやセミナーの開催などを通じて、マテリアリティ③「ITフリーランスが安心して働ける環境の整備」を推進しております。

ITフリーランス向け福利厚生プログラム「フリノベ」

ITフリーランスの不安要素を解消するために、ヘルスケア・会計ソフト・提携ローンなど、2017年1月のサービス開始以降、約50サービスと提携しています。



ITフリーランス懇親会

ITフリーランス同士の横の繋がりをつくるきっかけとして、オフラインでの懇親会を運営しています。2025年3月期は東京・大阪・福岡の3拠点で開催しました。



各種セミナー

トレンドの技術を学ぶ「Tech Valley」やフリーランスを取り巻く法制度の改正などを解説するセミナーなどを定期的開催しています。

ITフリーランスへのサポート体制

ギークスでは、案件参画中のITフリーランス一人ひとりに対して、CS（カスタマーサポート）担当が専任で対応し、キャリア提案や参画先への相談、各種事務手続き代行などのサポートを行います。次の案件を探す場合には、EP（エンジニアパートナー）担当が企業への営業活動をフォローします。



マテリアリティ③「ITフリーランスが安心して働ける環境の整備」

ギークスでは、ITフリーランス向け福利厚生プログラム「フリノベ」を2017年より運営するなど、ITフリーランスの声をもとに働き方を支援するサービスを生み出してきました。フリーランスというキャリアの選択を後押しし、安心して長く働き続けられる環境づくりを目指しています。

8 働きがいも
経済成長も

9 産業と技術革新の
基盤をつくろう

コーポレートガバナンスの強化

Strengthening Corporate Governance

IT人材事業を中心としたギークスグループの事業戦略を支えるため、強固でセキュアな情報管理体制の構築を進め、また、東証スタンダード上場企業としての社会的責任を遵守するために、経営管理本部が中心となり、コンプライアンス研修の機会を確保しております。これらの取り組みを通じて、マテリアリティ④「コーポレートガバナンスの強化」を推進しております。

PマークやISMSの認定取得

会社の事業継続・発展・社会的な信頼の獲得のため、個人情報保護マネジメントシステムの体制を整えております。社内規程の整備や社内ルールの徹底が評価され、PマークやISMSの認定を取得し、高セキュリティが要求される事業を営む当社として、セキュリティ国際基準・国内基準をクリアしていくことを目指しています。



コンプライアンス研修&チェックテスト

コンプライアンス研修を毎年3月に実施しており、動画視聴とテキストの確認によって、インプットの機会が提供されています。また、新入社員は入社時に同様の研修を受講しています。研修受講後のチェックテスト受験を経て、研修終了となります。

- ・個人情報保護及び秘密情報保護研修
- ・インサイダー取引防止研修
- ・ハラスメント防止研修
- ・反社会的勢力排除研修

研修の機会を通じ、情報システムガイドラインやSNSガイドラインの確認、健康経営やサステナビリティ推進に関する理解促進も行っております。

マテリアリティ④「コーポレートガバナンスの強化」

IT・DX・AI人材の活用を軸とした、技術リソースのプラットフォームという事業の性質上、社会からの信頼を得ることは必要不可欠であり、健全性の高い組織を構築し、永続的に維持していくことが会社存続のために重要であると考えています。この認識とコンプライアンスの重要性をコーポレート・ガバナンスの基本的な考え方として、今後も社会的信頼の確保を図ってまいります。

16 平和と公正を
すべての人に



パートナーシップの形成・拡充

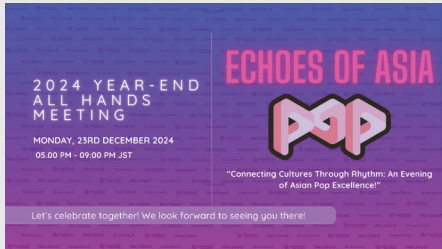
Building and Expanding Partnerships

マテリアリティ⑤「パートナーシップの形成・拡充」を推進するため、2025年3月期は様々なステークホルダーの方々に向けて施策を実施いたしました。

●ギークスグループで働くメンバーに向けて

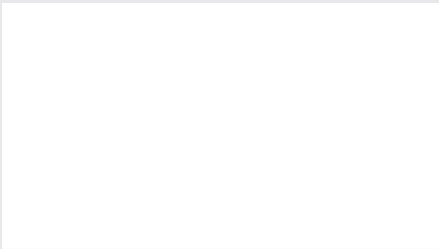


ギークスアワード



Seedtech All Hands Meeting

●ギークスグループのサービスご活用者の皆さまに向けて

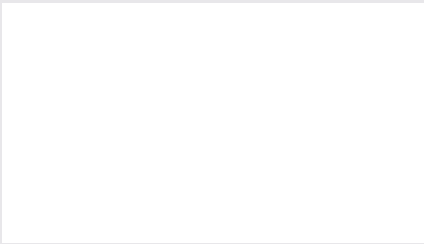


ITフリーランス懇親会



Seedtech Reunion

●ギークスグループで働くメンバーのご家族に向けて

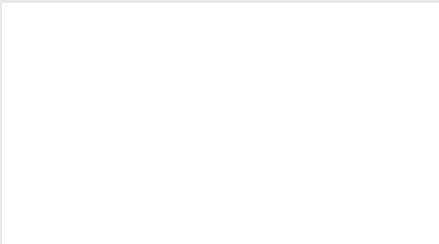


産休育休ガイドブック

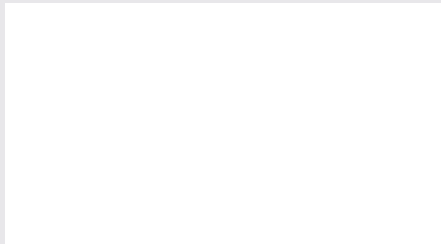


WeWork KIDS DAY

●企業の社会貢献性に対して



決算開示資料



CSRレポート2024

マテリアリティ⑤「パートナーシップの形成・拡充」

持続可能な社会の実現を達成するためには、ステークホルダーとのパートナーシップが重要であると考えています。社員・家族・ITフリーランス・パートナー企業・株主・社会との接点において、ギークスが果たす役割を最大化させます。

17 パートナーシップで
目標を達成しよう



サステナビリティ推進担当の取り組み

Efforts by the Sustainability Promotion Team

ギークスの広報・サステナビリティ推進部は、ギークスグループ国内全体のサステナビリティ推進を担っています。2025年3月期は「気候変動への対応」をテーマに掲げ、新たに6つ目のマテリアリティとして「気候変動への対応と対策」を策定しました。また、CO2排出量の算定ではScope3領域の算定および開示を開始し、より包括的な環境負荷の見える化に取り組んでいます。

マテリアリティ⑥「気候変動への対応と対策」

私たちの生活に深刻な影響を及ぼし始めている気候変動に対して、ギークスグループでは環境負荷の低い事業の展開や企業活動による温室効果ガスの排出量の抑制などを通じ、地球環境へのリスクを軽減した取り組みを進めております。

取り組み施策(例)

- ・サステナビリティ開示(国内・海外拠点のCO2排出量等の算定及び開示)
- ・フレキシブルオフィスWeWorkへの入居
- ・SX推進の観点からの業務改善



Scope3のCO2排出量の算定開始

ギークスグループでは環境負荷の低いビジネスモデルで事業展開を進めていることもあり、これまではフレキシブルオフィス利用におけるCO2排出量など、Scope2のみでの算定を実施してまいりました。今回のCSRレポートの発行を契機として、Scope3での算定を開始し、従業員の通勤・出張、リース機器の利用といったカテゴリでのCO2排出量の算定を進めていきます。

Scope3における算定項目

- ・「従業員が出張で利用した公共交通機関や宿泊施設」における排出量
- ・「従業員の通勤」における排出量
- ・「リース機器や賃貸オフィス」における排出量

※6つ目のマテリアリティの策定やScope3の算定項目の追加に関しては、担当部門発案のもと、サステナビリティ推進委員会、経営会議での議論を経て、決定いたしました。

ギークスグループ

サステナビリティ推進5大ニュース

- ① 地域創生に向けた取り組み
- ② 「Culture Deck」の公開
- ③ 健康経営の推進
- ④ リユースに対する啓発活動
- ⑤ サステナビリティ開示

①地域創生に向けた取り組み

Initiatives for Regional Revitalization

ギークスでは、「IT人材不足」に起因した地域企業の経営課題解決のため「地域創生」を掲げ、2025年3月期においては約8年ぶりの地方拠点の開設（北海道・広島）など、様々な取り組みを実施しました。



ギークスが掲げる「地域創生」とは

ITフリーランスをはじめとしたデジタル人材の専門性を活かし、地域企業の業務効率化やDX推進、プロダクト開発などに寄与することで、企業成長と地域の活性化を後押しする取り組みです。コロナ禍以降の多様な働き方の浸透を通じて、企業とデジタル人材の「地域をまたいだマッチング」が活発化した流れを受け、持続可能な地域経済の発展に貢献していきます。

① 地域創生に向けた取り組み

Initiatives for Regional Revitalization

ギークスでは、前頁でお伝えしたとおり、地域企業の成長支援と地域経済の活性化を目指し、地域創生に向けた取り組みを推進しております。地方拠点の設立やイベント開催、各地での連携強化を通じて、IT人材との新たな接点づくりと、企業の課題解決に貢献しております。

地方拠点の設立(北海道・広島)

2025年1月に北海道支店と広島支店を開設しました。これまで拠点がなかった北海道・中国地方の地域企業、IT人材の皆さまに向けて価値提供を拡大していきます。

※ギークスは、空間資源の有効活用やエネルギーの効率化といった観点から環境負荷の軽減に貢献する取り組みのひとつとして、シェアオフィスの活用を進めています。



▲Deep Tech CORE SAPPORO (北海道支店)



▲hajimari-no-mado (広島支店)

地域創生イベント(Jacken Tech、Denim Tech)の開催

地域企業が抱える「IT人材不足」に対する解決策や事例の提示、地方在住のIT人材や地方への移住を考えるIT人材が抱える継続的な案件獲得への不安払拭や多様なキャリアパスの提案などを目的に「地域創生イベント」を開催しました。



▲広島県広島市で開催した「JackenTech」



▲岡山県倉敷市で開催した「Denim Tech」

プロフェッショナル人材戦略拠点への登録

地域企業の経営課題解決のために、専門的な知識や経験を持つ人材の活用を支援するための拠点のこと。2025年3月期は10県の拠点に登録しました。

登録拠点 宮城県・神奈川県・静岡県・長野県・岐阜県
・広島県・愛媛県・福岡県・大分県・沖縄県

担当者の声

企業が直面する「IT人材不足」は、単なる人手不足にとどまらず、業務効率の停滞や競争力の低下を招き、企業の成長や存続にも影響を及ぼしかねません。地方企業においては、地域経済の停滞や人材流出といった課題にも発展します。2025年3月期は北海道と広島に支店を開設し、地域創生に向けた取り組みを加速させてまいりました。今後もギークスのサービスを基軸に、持続可能な地域経済の発展に貢献していきたいと考えています。



IT人材事業本部
九州・北海道営業部長
新井 敦寛
Atsunori Arai

②「Culture Deck」の公開

Release of the Culture Deck

ギークスの中核事業であるIT人材事業(国内)を牽引するIT人材事業本部において、これまでの組織づくりの中で大切にしてきた価値観やカルチャーについてまとめた「Culture Deck」を公開しました。

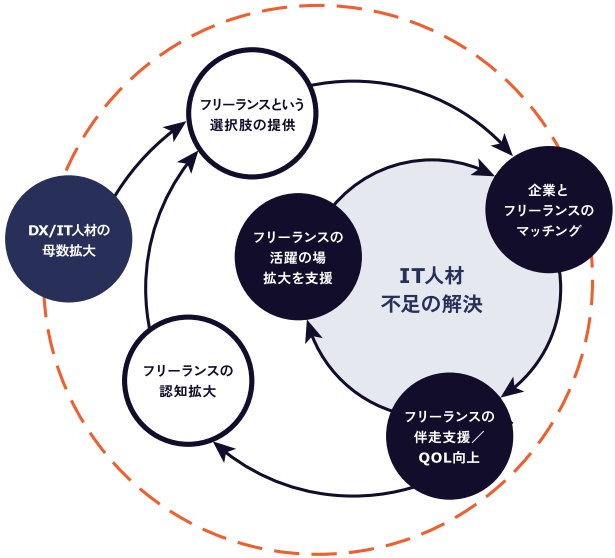


Culture Deck 目次

- ・事業ミッション
- ・ギークスサイクル
- ・カルチャー(10の心得、事業部クレド)
- ・組織体制・ポリシー・データ
- ・オンボーディング・評価制度・キャリアパス
- ・福利厚生
- ・採用情報

ギークスサイクル

IT人材事業本部の事業を通じた社会貢献性をまとめたものであり、フリーランスという働き方への啓蒙・支援が、社会課題である「IT人材不足」の解決へ寄与できることを表しています。また、ギークスサイクルは、マテリアリティ①「技術リソースのシェア・流動化」やマテリアリティ③「ITフリーランスが安心して働ける環境の整備」へのアプローチにも繋がります。



10の心得

ギークスグループのメンバー全員が大切にしている価値基準であり、半期に最も活躍したメンバーに贈られる「Buddy賞」においても、10の心得の体現が選定基準の一つとなっています。

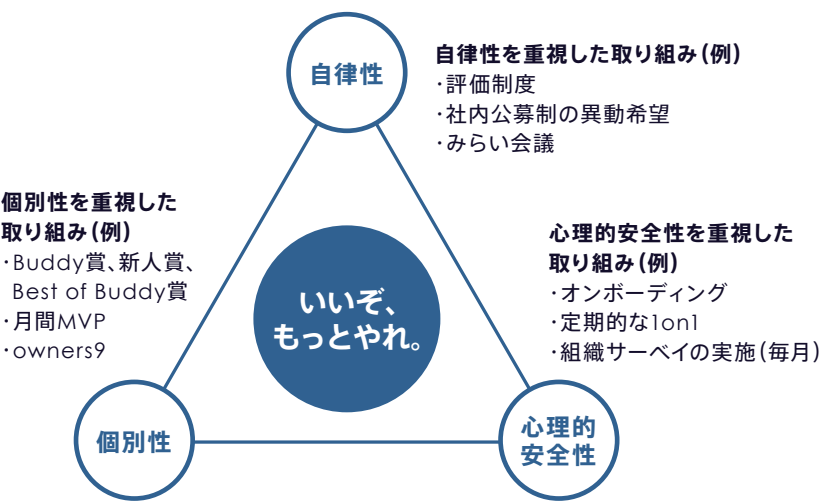
- 🔍 年中無休の好奇心
- 🔄 変化を楽しむ
- 🚀 Speed!Speed!Speed!
- 🗣️ 想いを語る
- 🏆 No.1しか興味ない
- 💡 モテる人間になる
- 🔧 出る杭を讃える
- 🤝 妥協のないつながり
- 🎮 「遊ぶ」も全力!
- 🌟 感動創造集団。

担当者の声

ギークスの人材育成の考え方や道筋を明示することで、社内外に対する透明性を高めたいという想いから「Culture Deck」を制作しました。働くメンバーにとっては初心を思い出すきっかけに、求職者にとっては企業との相互理解を深める手がかりに。人的資本開示の一環として、こうしたツールが様々なステークホルダーの方々とのより良い関係構築にもつながると信じています。

組織ポリシーとその取り組み

異なる個性を持つIT人材事業本部のメンバーが活躍できる組織を作るためのポリシーとして「いいぞ、もっとやれ」を掲げ、働く環境を楽しみ、熱量を最大化する組織づくりを進めています。



田岡 悟志
Satoshi Iwaka
IT人材事業本部
人事戦略部部長

③健康経営の推進

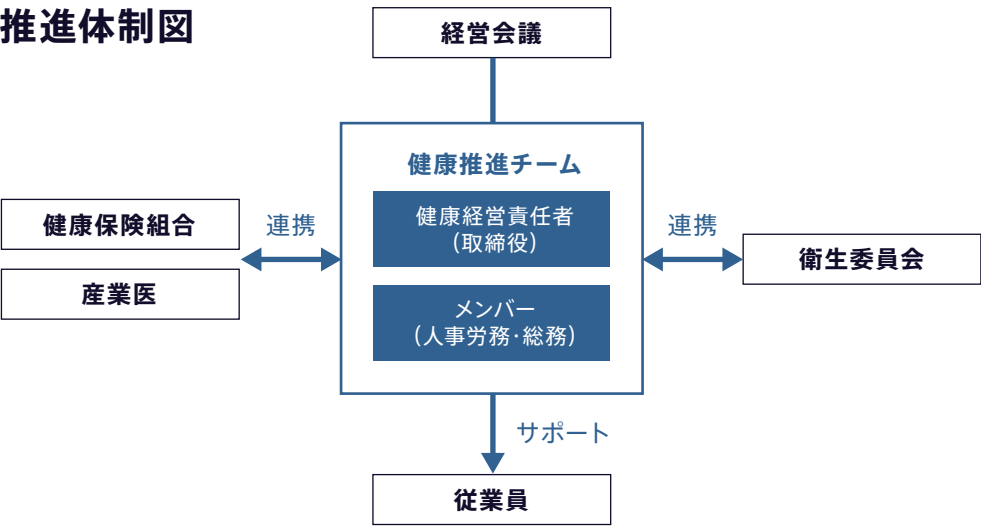
Promotion of KENKO Investment for Health (KIH)

ギークスでは、健康経営宣言の策定と組織体制を整備し、健康経営を推進しています。健康管理・促進、ワークライフバランス、メンタルヘルス対策といった取り組みを通じ、メンバーだけでなくその家族までサポートできるような体制を整えています。

健康経営宣言

ギークスグループでは、様々な事業活動を通じて社会に貢献するには、まず当社従業員とその家族の心身の健康が不可欠であり、重要な経営資源の一つであると考えております。グランドビジョンの実現に向け、従業員が十分な力を発揮し活躍できる環境作りに取り組み、健康経営を積極的に推進します。

推進体制図



ギークスグループ健康経営4つの柱

-  **疾病予防**
-  **健康的な生活習慣の獲得**
-  **仕事と私生活の両立支援**
-  **コミュニケーション**



健康経営優良法人

地域の健康課題に即した取り組みや日本健康会議が進める健康増進の取り組みをもとに、特に優良な健康経営を実践している大企業や中小企業等の法人を顕彰する制度です。従業員の健康管理に対する取り組みやその成果が認められ、2022年から毎年、健康経営優良法人(大規模法人部門)に認定されています。



健康優良企業「銀」の認定

東京都に所在している医療保険者に参加している企業に参加できる制度であり、企業全体で従業員の健康づくりを進めていくことを宣言し、健康企業の評価基準を満たすと、「健康優良企業」認定を取得することができます。2018年から毎年、「銀の認定」を取得し続けています。

③ 健康経営の推進

Promotion of KENKO Investment for Health (KIH)

2025年3月期は、これまでのギークスグループの健康経営の4つの柱に加え、従業員の個別事情やライフステージに応じた両立支援・促進、自社従業員を超えた健康増進、PHR (Personal Health Record) 活用に向けた環境整備という3つのテーマを重点的に取り組みました。

従業員の個別事情やライフステージに応じた両立支援・促進

〈従業員の理解度の確認〉

- ・育児との両立
- ・介護との両立
- ・女性特有の健康問題に対する理解啓発

※年に1度実施する全従業員向けのチェックテストにてそれぞれの理解度を測定。



〈社内広報の実施〉

- ・メンタルヘルスケア関連動画の配信
- ・喫煙、飲酒、生活習慣病のリスクをまとめた資料の展開
- ・産休育休ガイドブックの更新

※社内チャットツールを活用し、定期的に全従業員向けに情報展開



自社従業員を超えた健康増進

〈従業員・派遣・SESを対象〉

- ・ストレスチェックの実施
- ・インフルエンザ予防接種の実施



PHR (Personal Health Record) 活用に向けた環境整備

〈PHR (Personal Health Record) とは〉

個人の健康や身体の情報記録した医療データのこと、本人の意思のもと、生涯に渡って個人の健康・医療等に関するデータを管理し、活用する仕組み。スマホ等のデバイスで歩数や消費カロリーなどを記録することも、この仕組みの一つ。

〈ウォーキングイベントの開催〉

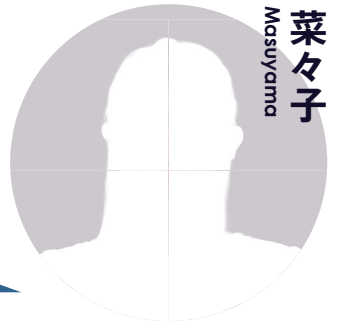
関東ITS健保が運営するヘルスケアアプリ「Pep Up」を活用し、2024年5月と11月にウォーキングイベントを開催しました。11月開催のイベントでは43名(5月開催時よりプラス10名)が参加し、事前アンケートに基づき目標歩数ごとに5チームに分かれ、総歩数や目標達成率を競いました。

参加者の声

- ・1位のメンバーの1ヶ月間の総歩数469,253歩は驚きました！
- ・事前アンケートに基づいたチーム編成だったので、自分のペースで楽しく参加することができました！
- ・業務上で関わりの少ないメンバーとの交流も増え、健康だけでなく、社内コミュニケーションの一環としても活用できています。

担当者の声

ギークスでは、働くメンバーとご家族の健康こそが、会社の成長を支える大切な要素だと考え、健康経営に力を入れています。社内で開催したウォーキングイベントでは多くのメンバーにご参加いただき、その前向きな姿勢に私自身刺激を受けましたし、感謝しております。今後も引き続き心身の健康をサポートする取り組みを進め、働きやすさとパフォーマンスの向上に貢献できればと考えています。



経営管理本部
コーポレートデザイン部
人事労務チーム
増山 菜々子
Nankko Masuyama

④ リユースに対する啓発活動

Engagement Activities for Reuse

ギークスではSDGs達成に向けて、事業を通じた社会貢献活動だけでなく、メンバーの日常生活においても身近に活動できるように「リユース（再利用）」に着目した様々なイベントや活動を行っています。

「Re:マルシェ」の開催

「Re:マルシェ」は「リユース（再利用）」に着目し、各自で不要になったモノを持ち寄り、お譲りし合うイベントであり、2024年7月の開催で4回目を迎えました。



日時:2024年7月11日 12時～14時／16時～18時
会場: WeWork渋谷スクランブルスクエア39階
来場者: 177名
出品アイテム数: 675アイテム
企画賛同企業: 37社

※Re:マルシェの企画に賛同いただいた企業の皆さまには、出品物の提供や社内でのイベント告知などにご協力いただきました。



「Re:マルシェ」FASHION DAYS
出品アイテムを衣料品に特化して開催。

日時: 2024年11月5日～7日
会場: WeWork渋谷スクランブルスクエア SHOWCASE
来場者: ブース常設型のため、把握できず
出品アイテム数: 500アイテム
企画賛同企業: 5社

※出品物の提供にご協力いただいた企業の数としています。

引き取られなかったものは下記2つのプロジェクトを通じて、寄付に充てられました。
買取等で発生した金額は、令和6年能登半島地震の義援金に充てさせていただきました。



古着deワクチン

不要になった衣料品をカンボジアをはじめとした開発途上国に輸出し、販売して現地で再利用する仕組み。また、1回の申し込みにつき、ポリオワクチンが5本提供される。



チャリボン

不要になった本やDVD・CDなどを寄付プロジェクト「チャリボン」を通じて送付すると、その買い取り金額がNPOやNGOなどへの寄付に充てられる仕組み。

担当者の声

ギークスが中心となって開催している「Re:マルシェ」は、SDGsの達成に向けた取り組みとして、多くの企業の賛同を集めながら、多くの方々にご参加いただいています。誰もが気軽に参加できるこのイベントを通じて、身近な行動が社会課題の解決につながることを実感してもらえたらと考えています。ギークスとしても、本取り組みを通じてサステナビリティへの姿勢を社内外に発信し、ブランディングに繋がれば嬉しいです。

荒川 有希絵

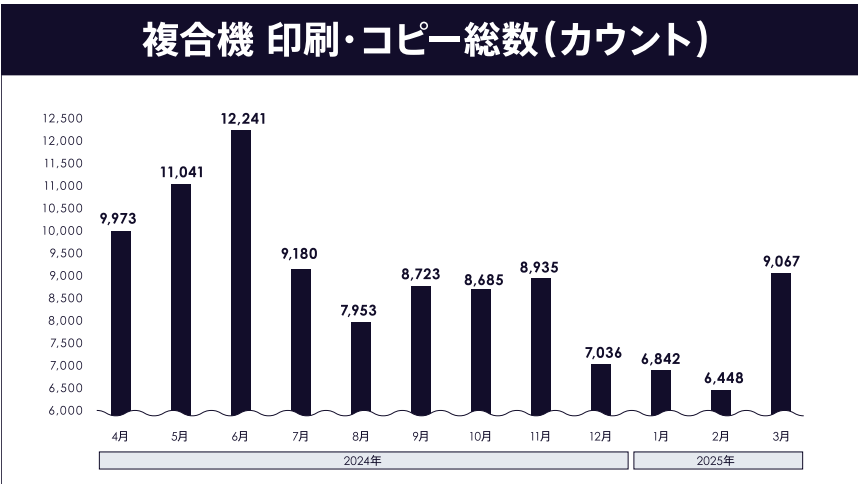
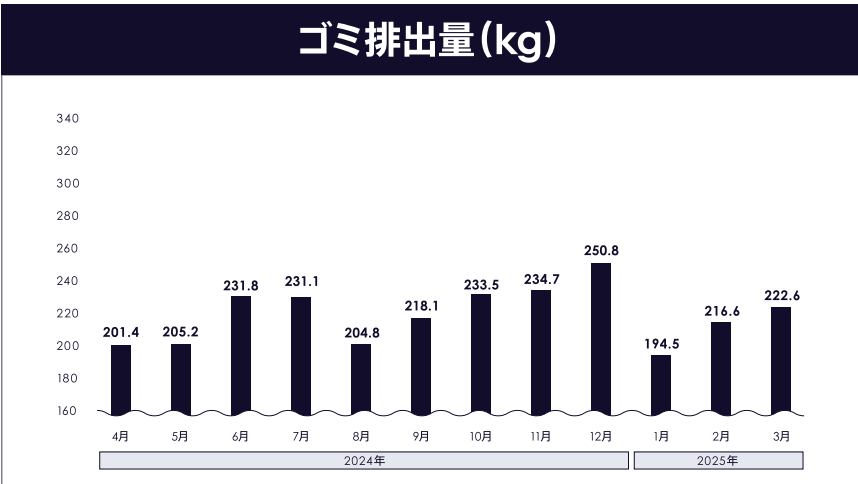
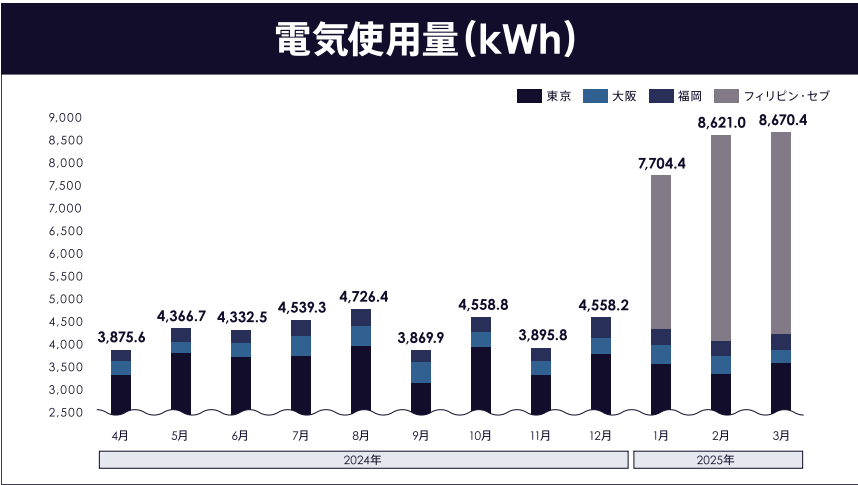
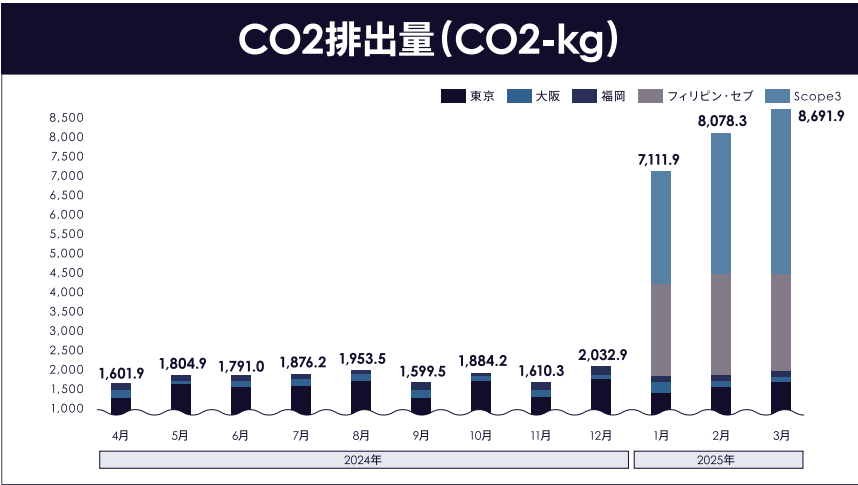
Yukie Arakawa

広報・サステナビリティ推進部

⑤サステナビリティ開示

Sustainability Disclosure

ギークスグループのサステナビリティ開示では、これまで国内拠点（東京・大阪・福岡）における「CO2排出量」「電気使用量」「ゴミ排出量」「印刷・コピー総数」を算定・開示してきました。2025年1月以降は、海外拠点（フィリピン・セブ島オフィス）における「CO2排出量」「電気使用量」の算定に加え、Scope3領域（出張・通勤・リース機器）の算定および開示も新たに開始しています。



ギークスグループは創業以来、環境負荷の低い事業を展開してきました。また、国内拠点ではフレキシブルオフィスやシェアオフィスを活用し、「オフィスを持たない」選択を進めることで、環境への配慮を徹底しています。

主な国内拠点である東京・大阪・福岡はそれぞれWeWorkに入居しているため、各WeWorkの総面積に対するギークスグループの占有面積の比率を算出し、その比率に基づいてCO2排出量を算定しています。

CO2排出量の算定・開示については、2024年12月まではScope2のみを対象としており、主に国内拠点のオフィス利用に伴う排出量を算定してきました。

2025年1月よりScope3領域（出張・通勤・リース機器）の算定を開始し、これに伴い、グラフではScope2（東京・大阪・福岡・セブ）とScope3を区分して開示しています。

2026年3月期の

サステナビリティ推進の取り組みの方向性

2026年3月期のサステナビリティ推進目標

Sustainability Promotion Goals for FY3/2026

2026年3月期は、新たに6つとなったマテリアリティに対する取り組み、また、ギークスのサステナビリティ推進担当部門による各種取り組みを通じて、ギークスグループのサステナビリティ推進を実施していきます。

◆ 6つのマテリアリティ①

「技術リソースのシェア・流動化」の推進目標

・geechs job新規登録者数・取引企業数

◆ 6つのマテリアリティ②

「IT・DX・AI人材の成長・リスクリング」の推進目標

・シードテックのサービスである「ソダテク」や「Seed Tech School」の利用者の拡大

◆ 6つのマテリアリティ③

「フリーランスが安心して働ける環境の整備」の推進目標

・フリノベの運営
・オンライン、オフラインでのイベントやセミナーの実施
・顧客ロイヤリティ調査の実施

◆ サステナビリティ推進担当部門の推進目標

・サステナビリティ推進に関連するイベントの実施、情報発信、ブランディング強化
・6つのマテリアリティの取り組み施策への支援及び再検討

◆ 6つのマテリアリティ④

「コーポレートガバナンスの強化」の推進目標

・ゼロトラストを基準とした情報システム管理体制の推進
・全社員を対象としたコンプライアンス研修の実施
・上場企業の社会的責任遵守に向けた適切な情報開示

◆ 6つのマテリアリティ⑤

「パートナーシップの形成・拡充」の推進目標

・健康経営の推進
・様々なステークホルダーを対象としたイベント等の企画実施

◆ 6つのマテリアリティ⑥

「気候変動への対応・対策」の推進目標

・ギークスグループ全体のサステナビリティ開示の実施
・SX推進の観点からの業務改善提案



GEECHS